



学校だより

11月号

令和元年 11月 1日

さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1

TEL 048-663-7627

FAX 048-663-9885

E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 ○すすんでまなぶ子 ○たすけあう子 ○げんきな子

児童数 739名

自然に触れ、自然に学ぶ

教頭 立道 義明

朝夕肌寒くなり、もう一枚羽織る上着が必要な季節になりました。校庭を歩いているとキンモクセイの香りに包まれており益々秋の深まりを感じます。10月も校外に出る活動が続きましたが、どの学年もマナーよく学習のねらいを達成することができました。また、10月26日に実施しました学校公開では、多くの保護者、地域の方に御来校いただきありがとうございました。学校公開アンケートでは、授業の感想等温かな御意見をいただき、今後の教育活動への励みとさせていただきます。

先日の台風19号の接近により、さいたま市にも特別警報が発令されました。10月19日(土)から20日(日)にかけて本校も避難所として開設されました。幸いなことに本校は翌日から通常通り登校することができましたが、他県では今なお復旧が途中の地域も多くあります。改めて自然の厳しさを実感させられるとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて10月の全校朝会では、教頭から「自然についてちょっとみんなで考えよう」というテーマでお話をしました。今回の学校だよりでは、植竹小学校に着任する前に3年間勤務していた、館岩少年自然の家での経験を踏まえて書きたいと思います。

さいたま市立館岩少年自然の家は、さいたま市から自動車でおよそ200km、時間にして4時間ほど離れたところにあります。自然の家は山々に囲まれた自然豊かなところ。どのくらい豊かかという、自然の家から一番近いコンビニまで行くのに自動車で約50分かかります。

朝会では、子ども達にクイズを出しました。1問目は、「日本の森や林は昔に比べて増えているか減っているかどちらだと思いますか。正解は、実はほとんど変わっていません。」2問目は、「木を切ることは良いことか悪いことか、正解はどちらともいえません。」1問目は昔に比べて森林が意外に減っていないことに驚き、2問目では「なぜ？」と子ども達は疑問をもちました。日本にある森林の半分以上は人の手で育てられた「人工林」であり、木を切らずに放置しておくとうどんどん荒れてしまい、そこで生きている熊や鹿などの動物は木の実等餌がとれなくなり人里まで降りてくるそうです。館岩からさいたまに自動車に戻る際、よく鹿に遭遇したのは、山に餌がないからだと言われたので地元の方から教わりました。

そして、植竹小学校の自然に目を向けてみます。2学期に入り校庭を歩いてみるとたくさん木の実を見つけました。松ぼっくり、どんぐり、トウヒ、プラタナスなど。どんぐりは、クヌギ、シラカシ、マテバシイなどがありました。植竹小学校も豊かな自然に囲まれていることに気がきます。残念なことに、ペットボトルやハンガーなどが落ちているを見つけました。これは子どもではなく大人かもしれません。それでも、校庭に落ちていましたと拾ってきてくれる子ども達がいいます。とても嬉しく思います。

この夏、私の出身地である滋賀県で、自然豊かな琵琶湖を撮り続ける写真家の今森光彦氏の講演を聞く機会がありました。その中で「世界中の森林が少なくなっていて、問題になっていると言われているが、地球の裏側で行ったこともない国の環境問題を自分たちのこととして考えることは難しい。まずは今生活している身近な環境に目を向けることが大切である。」というお話が大変印象的でした。子ども達にとって身近な植竹小学校の自然に関心をもつことが第一歩になると思います。ちょっと外に出てみませんか。そして、木の葉や木の実の違いを見つけよう。集めてみましょう。作ってみることもいいですね。

